

オータムティアラ

3歳牝・ダート1900m M1
9月21日（祝・月）水沢競馬場

昨年の優勝馬・ミナトミナイト

JBC協会協賛 HITスタリオンシリーズ／テレビ岩手杯

第7回 オータムティアラ（M1） （フィエールマン賞）

水沢競馬場／3歳牝・ダート1900m

9月21日（祝・月）第12競走 18：05発走

オータムティアラは3歳牝馬三冠の最終戦として2020年に新設。第1回から第4回まではOROパーク盛岡競馬場で行われ、レース名も『OROオータムティアラ』とされていました。2024年の第5回から水沢競馬場に移り距離も2000mから1900mへ100m短縮、レース名からはOROが外れて『オータムティアラ』になりました。

現在の3歳牝馬三冠路線が設定されてからひまわり賞とオータムティアラを制した二冠馬は3頭誕生していますが三冠馬は未だ誕生せず。セイクリスティーナがその最初の3歳牝馬三冠の栄冠に挑みます。

■セローム(牝3 水沢・菅原右吉厩舎)



2歳時には重賞で3着が三度の成績。春初戦のあやめ賞でも勝ったセイクリスティーナから7馬身弱の3着に入っており地力の高さは十分に示してきている。近走の苦戦は常に重賞や重賞級の面々、それも牡馬のそのクラスと戦ってきた分…と言えるだろう。ただ距離に関してはベストは1400mあたり、マイルを越えてくると苦戦しがちなのも戦績から感じる通り。1900m克服が今回の課題でありカギになりそうだ。

いろいろ競馬を試してもらっているがなかなか結果に繋がらない。ここは一頭強い馬がいますしね。自分の競馬に徹してどこまで、でしょうか。（菅原右吉調教師）

■ヒナタ(牝3 水沢・畠山信一厩舎)



芝重賞のオパールCで4着、続くひまわり賞でも6着確保。勝ち負けには至らなかったものの重賞でも通用を証明した。そのひまわり賞では積極的に立ち回ったうえに3頭横並びの競り合いが続いた結果とは言え距離が堪えたかとも感じた。それでも最後まで食い下がっているのだから平坦コースに変われば・・・と思うところだが、陣営の評価は「盛岡向き」で今度は水沢対応が課題になるのは注意点。とはいえ能力は3歳牝馬の中でも上位のはず。それを発揮できさえすればあとは流れひとつ。

状態は変わりなく安定という印象。盛岡の方が良い馬ですし距離もひまわり賞を見ると長い感じがする。どこまで対応してくれるか？ですね。（畠山信一調教師）

■リケアマカロニ(牝3 水沢・菅原勲厩舎)



転入初戦で挑んだひまわり賞では5着。セイクリスティーナの単勝1.5倍に対して2.4倍の支持を受けていたことを思えば、ここは冷静に見てやや物足りない結果だったと言わざるを得ない。ただしJRA時代の本馬の実績や評価を振り返ればその結果だけで期待値を下げてしまうのも早計と言うべきだろう。見方を変えれば“転入初戦で重賞5着”は十分な成績。ここでは岩手での実戦経験を積んでの上積み期待するのが自然なはずだ。距離不足と思える1400m戦を叩いて勝って、再度の女王への挑戦。捲土重来。

距離は心配していないし状態面も悪くない。ここまでが思っていたほどの走りではなかった。ここは良い走りを期待しています。（菅原勲調教師）

■スカララッティ(牝3 水沢・伊藤和忍厩舎)



前走のひまわり賞では4着健闘、セイクリスティーナとは6馬身弱の差があったとはいえ自身は重賞初挑戦で、それも3歳C1級からの“格上挑戦”的な戦いにも関わらずこれだけやれば上々。この走りは本馬の評価アップにも繋がるものだった。前走時にも触れたが今年2月デビューでここまでキャリア7戦、まだまだ力を付けている途上でもあるだろう。重賞で勝ち負けするにはまだはっきりとした差があったのも確かだが、それを埋めるだけの彼女の伸び代に期待してみても良いのではないかな。

前走後は遠野でケアをしながら調整。追い切りの感触も良かったようです。小回りの水沢の方が差を詰められるのではないかと期待しています。（伊藤和忍調教師）

■クイーンオメガ(牝3 盛岡・齋藤雄一厩舎)



3月の今季初戦で快勝し続くあやめ賞でも4着に。順調な滑り出しに思えたが、4月の留守杯日高賞では11着、8月のひまわり賞でも同じく11着と重賞では苦戦している。特に夏以降は着順の数字よりは着差の広がり方が気になる近況でもある。ただ前走にしても牝馬勢の中では差がなく戦っての5着だったしそれ以前も対牡馬ではともかく牝馬同士であれば互角に渡りあってきている。まだ軽視は禁物と考えておきたい。

ケアをして前走時より状態は良さそうに感じます。脚の使い所ひとつだとは思いますが距離は長いですね。（齋藤雄一調教師）

■トサノデイジー(牝3 水沢・伊藤和忍厩舎)

No Photo

今回のメンバー中での最大の“惑星”はこの馬か。高知の三冠路線ではカツテナイオイシサが猛威を振るっていたこともあり高知優駿での4着が最高だったが、歯ごたえある今年の高知3歳勢の中でこれだけやれば上々という評価ができるし、実際佐賀に遠征してのル・プランタン賞でサキドリトッケンから4馬身ほどの差の4着という戦績もそれをあと押しするもの。1900mの経験を複数持つキャリアも武器。もちろん転入初戦・初コースでの戦いはハンデだがどんな戦いを見せるか注目の一頭。

追い切りは最後甘く見える時計でしたがかなり長めから追っていたの内容は十分だったと思います。高知よりは水沢の方が脚の使い所も合うのでは。（伊藤和忍調教師）

■キララカ(牝3 水沢・菅原勲厩舎)



今季はここまで重賞に三度出走している本馬だがそこでの着順は7着・10着・10着。自己条件戦でも掲示板に手が届かず、苦戦のトンネルから抜け出せずにいる。現時点での最後の勝利は昨年9月28日、まもなく1年が経とうとしているが、これまでも触れてきたようにその昨年は重賞でも掲示板確保、レジェンドバローズの2着に食い下がった事もあった馬だ。本来の持てる力の発揮には引き続き警戒しておきたい。

今年の成績がなかなか変わってこない。状態面は決して悪くないと感じるのですが、ここであまり強気にはなれないですね。（菅原勲調教師）

■コンバットキャモ(牝3 水沢・三野宮通厩舎)



今回のメンバーの中では唯一の重賞初挑戦。加えてマイル以上の距離での実戦経験もなく、成績比較ではここで高い評価をしづらい存在。ただ、勝ち星は2つに留まるがコースを問わず相手なりに力を発揮している点には注目しておきたい。父も母もどちらかといえばマイル以下での実績が厚い血統でやはり1900m対応が最初の課題。手堅い戦いぶり出所まで上位に食い込めるのか、あるいはこれまでにない一面を見せてくれるか。

前走で勝てたくらいの力はある馬。先行しなくても、砂を被っても差して来れる馬ですし、なんとか入着を目指して頑張っていきたいですね。（三野宮通調教師）

■サスケベラ(牝3 水沢・新田守厩舎)



不来方賞はさすがに厳しい結果だったがそれは度外視もできるもの。ここではやまびこ賞7着からひまわり賞7着、同じ着順でも内容が大きく変わってきていた点に再度注目したい。やまびこ賞時の424kgの馬体重がひまわり賞では442kgと大きく増加。今から考えればやはりやまびこ賞の頃の状態がもうひとつだったという事に、馬体重の増減からも判断できる。真夏を過ぎ今回は輸送もない地元戦。水沢コースとの相性も悪くない。加えて牝馬同士であれば見直しも必要になってくるはずだ。

涼しくなって調子は良くなっていますね。ここまでの重賞で良い競馬ができていないので強気にはなれないが、少し違う走りはできるのでは。（新田守調教師）

■モズホンマデッカ(牝3 盛岡・飯田弘道厩舎)



前走のひまわり賞時は水沢・伊藤和忍厩舎所属で出走した本馬。今回は転厩後最初のレースとなる。そのひまわり賞の際には“馬場傾向が味方してくれない中でも健闘してきた”と評価したが、その時も結果的には後方から大きく動けずの9着という結果。ここは重賞級での彼女の現在地と冷静な判断も必要だろう。とはいえ前走は初めての重賞挑戦でもあった。その経験が糧になっているなら二度目の重賞での前進に期待してもいいだろう。

転厩してきてからも順調に乗り込めている。ひまわり賞のレースを見ても後方で脚を溜めた方が良さそうですし、展開が向けばおもしろい競馬ができるのでは。（飯田弘道調教師）

■セイクリスティーナ(牝3 水沢・佐々木由則厩舎)



牝馬三冠達成に挑戦だ。ここまで重賞8勝、それもダートだけでなく芝重賞でも勝ち星を挙げ、距離も短距離から2000mまでこなしているのは、それだけ対応できる幅が広い、すなわち高い能力を備えているという事。強いて割引材料を探し出すとすれば1900mがベストの距離ではないのでは？という部分だが、それも“能力の幅”で克服してきている以上ここで大きな問題になるとは思えない。現在の牝馬三冠の形になってから二冠馬は誕生しているが三冠馬誕生なら初めて。既に名牝と言える本馬がさらなる勲章を狙う。

雨で馬場状態が悪くなりそうなのが心配ですが、ここまでの実績通りに走ってくれると期待しています。（佐々木由則調教師）

■ムルーデ(牝3 水沢・三野宮通厩舎)



ひまわり賞の際の「見どころ」では1800mが長い可能性を懸念した本馬だったが終わってみれば逃げてぶとく粘り2着確保。ゴール直前こそ脚が止まった感じだったがセイクリスティーナ相手に簡単に先頭を譲らず走り抜いた点は高く評価していいだろう。自己条件の前走は3着に終わったが結果としては古馬B1よりも速い時計の決着が合わなかったと判断したい。何より岩手に来てからは重賞を含めても3着以下がない成績。成長感十分の走りですらに輝きを放っても不思議ではない。

状態面は変わりなく順調に來ています。終いが切れるタイプではないですし今回は距離も伸びる。先行して自分のペースで行ければ、でしょうか。（三野宮通調教師）